
しおり

karinko

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しおり

【コード】

N0614L

【作者名】

k a r i n k o

【あらすじ】

Aqua Timezの「しおり」を純情恋模様の2人で……

川沿いにのびる小道をぬける。

あの時計台まであと少し。

『響くん…どうやったらそんなにうまく口笛が吹けるんですか…？』

そう言っただけでぐっぐりと肩を落とすあいつに、

笑いながらコツを教えたのもこのあたりだ。

…あいつとの思い出なんて忘れてしまおうと思ってから、

一体何日たったのだろうか？

結局オレは忘れることなんてできずに…

こうして、あいつとの思い出の場所に向かっている。

いつも決まって夕方5時に、

あいつと待ち合わせしてた、駅前の時計台。

電車の時間の関係からか、

時間に律義なあいつには珍しく、

必ず2分半遅刻してた。

改札口から小走りでオレのもとにかけよってくるあいつをよく抱きしめてたっけ。

あいつは顔を真っ赤にさせて…

だけど強がってそれを夕日のせいにするんだ。

…どうして今はもう、隣にあいつがいないんだろうっ？？

何度も悩んだけど…

今だにはつきりとした答えは見つからない。

『約束』なんて、曖昧な言葉に未来をぬいつけた。

それが果されるなんて確証はどこにもないのに…

目に映るのはまっすぐにのびる、夕日に照らされたきれいな道。

少し前まではそこにあいつがいて…

眩しいほどにきれいだった景色。

今そこにあいつがいないように…

今見ている景色もきつといつか、消えてしまっのかもしれない。

少し切なくなっで、オレは顔をふせた。

地面を見つめると、素朴な小さな花がオレを見つめる。

いつかあいつは、こんな花を摘み取ってオレの家に持ってきた。

『響くん！このお花、ここに飾っておきますね！』

了承も得ずに勝手に部屋の窓際に飾った花。

オレは文句を言いながらも笑っていた。

どこにでもあるような、

平凡でありふれた、

だけど今はもうない、

素晴らしい昼さがり。

2人でいつも、『今』を生きようと言っていた。

だけどそう言っている間にも、

『今』は容赦なく逃げていくということを、

オレ達は時の流れに教わった。

ぼんやりと歩いているうちに時計台につく。

時計台にもたれかかって、あいつにもらった腕時計を見る。

時刻は丁度5時。

後2分半したら、並んで歩きだす2人がいたのにな。

ため息を一つついて、歩いてきた道を引き返す。

1人鳴らす足音。

悲しくなんかない。

自分にそう言い聞かせる。

心が明日に向かうには時間がかかるだろうけど……

そよ風が頬をなでる。

あいつは今その瞳に、

何を映し、

何を思い、

何を望んだのだろうか???

あいつのことを忘れずにいることと、忘れることと、

どちらがオレにとって幸せなのか分からない。

ただ…

立ち止まり、空を見上げる。

夕暮れ色のオレンジの空。

今、たしかに言えること。

「…今日も、好きだった」

気持ちを言葉にすると、自然と笑顔になった。

目を閉じて、また歩き始める。

「響くん」

誰かに名前を呼ばれて、目をあける。

オレは少し目を見開き、

小さく微笑んで名前を呼んだ。

「詩織」

(後書き)

Aqua Timezのしおりが好きすぎて小説にしました！
響視点で曲まんま使ってます(汗)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0614/>

しおり

2010年10月20日15時26分発行